

Slovenia Monthly September 2018

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年10月12日



～9月の主なポイント～

- 政治：** 国民議会、シャレツ新政権を承認。「左派」は連立与党との協力文書署名を見送り。
- 経済：** 安川電機、来年2月に新規ロボット製造拠点の操業開始を発表
- インフラ：** スロベニアにおけるNEDOプロジェクトの第2フェーズ開始に合意
- 外政：** シャレツ首相、オーストリア首相及び欧州委委員長と会談
パホル大統領、国連総会の一般討論演説において、国連改革の支持を表明
- 治安：** マリボル及びクランにおいて武装した極右勢力による集会が開催

政治

〈シャレツ新政権の発足〉

●国民議会によるシャレツ新政権の承認【13日】

13日、国民議会において、シャレツ次期首相により提出された閣僚名簿が、賛成45票、反対34票で可決され、新内閣が承認された(当館注:閣僚の承認は単純多数決)。

内閣承認にかかる投票後、シャレツ首相は、新内閣は責任感と熱意を持った閣僚の集まりであり、信用のおける内閣であると述べた上で、優先課題として、医療、経済及び安全保障等を挙げた。



(写真: The Japan Times)

シャレツ政権は、国民議会全90議席の内、連立与党5党による43票を有しており、今次の内閣承認投票では、同43票に加え、少数民族代表議員の2票を得て、単純過半数により可決されたが、連立与党との協力協定において内閣発足に関しても協力を約束していた「左派」は賛成票を投じず、投票を棄権した。また、特筆すべきは、野党のトニン「新スロベニア・イニシアティブ」(NSi, 中道右派)党首も投票時に議会を欠席していた。なお、40歳のシャレツ氏は、スロベニアにおける史上最年少の首相となる。

●投票後の各政党の反応【13日】

(1)外務大臣に就任したツェラル氏(前首相、現代中央党(SMC)党首)は、「スロベニアは、世界情勢の動きに常に迅速に対応し、民主主義、法の遵守及び人権を重視する国として協力してゆくと同時に、近隣諸国との友好関係の促進に尽力し、経済外交も強化してゆく」と抱負を述べた。

(2)連立与党の年金者党(DeSUS)のシモノヴィッチ議員は、シャレツ首相を賢明で地に足の着いた人物と評価し、連立政権は、突出して強力な政党がない中、困難な面もあるが、各党は却って協調し4年間の任期を全うするであろうとコメントした。

(3)野党のヤンシャ民主党(SDS)党首は、「1年後、2年後または4年後のスロベニアに対するビジョンにつき一言も言及出来ていない」として、シャレツ内閣を酷評した。

(4)メセツ「左派」党首は、シャレツ政権が連立合意書に基づいて政策を実施していく限り、同党は協力するとした上で、今般、合意文書に記載された税改革に関して民間セクターから批判を受けたことにより、連立与党が同合意文書に疑問を呈し始めていることに対して懸念を表した。また、コルディス「左派」議員は、内閣承認投票に参加しなかった理由として、「単に同リストの閣僚を信用していないため」とコメントした。



(The Slovenia Times)

対し、自分の役目は、国と国民の利益のための新政権との協力であるとして、内政では、法の遵守、民主主義及び福祉国家の促進、外交においては、近隣諸国との友好関係の維持、EU及びNATOの加盟国としての活動等における協力を呼びかけた。これに対し、シャレツ新首相は、「新政権は国民のために成果を出すことを目指しており、また、スロベニアがEU及びNATOの一員として国際場裡において認めてもらえるよう、政府一丸となって取り組む所存」と述べ、大統領との協力を約束した。

●「左派」、連立政権との協力協定署名を見送り【21日】

メセツ「左派」党首はシャレツ首相と協議を行った結果、18日に予定されていた連立政権との協力協定の調印を当面見送る旨表明した。その理由として、同党首は、シャレツ首相が首相府副大臣に任命したチュルンチェツ氏(Mr Damir Črnčec)が、移民反対の方針を掲げてきたことは、中道左派の理念と正反対であること等を挙げた。今後、引き続き連立政権の第一党LMSと左派の間で協議が予定されている。なお、同副首相は、ヤンシャ首相政権時代に公安情報庁(OVS)及び内外情報庁(SOVA)の長を務めていた頃より、度重なる過激な反移民発言で知られている。

●パホル大統領と新内閣との懇談【21日】

パホル大統領は、大統領府において、新政権の閣僚を招いたレセプションを開催した。同大統領は、新閣僚に

●シャレツ新政権の閣僚リスト

13日に国民議会により承認された新内閣の閣僚名簿は以下の通り。

- (1) 首相: マリヤン・シャレツ(Mr. Marjan Šarec, マリヤン・シャレツ・リスト(LMŠ)党首)
- (2) 副首相兼外務大臣: ミロ・ツェラル(Dr Miro Cerar, 現代中央党(SMC)党首)(前首相)
- (3) 副首相兼国防大臣: カルル・エリヤヴェツ(Mr Karl Erjavec, 年金者党(DeSUS)党首)(前外務大臣)
- (4) 副首相兼インフラ大臣: アレンカ・ブラトウシェク(Ms Alenka Bratušek, アレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB)党首)(元首相)
- (5) 副首相兼財務大臣: アンドレイ・ベルトンツェル(LMS)(Dr Andrej Bertonec, スロベニア国家ホールディング(SSH)社取締役(監査))
- (6) 副首相兼教育・科学・スポーツ大臣: イェルネイ・ピカロ(SD)(Dr Jernej Pikalo, 元教育・科学・スポーツ大臣)
- (7) 内務大臣: ボシュティヤン・ポクルカル(LMS)(Mr Boštjan Poklucar, クラン地域市民保護防災行政局長)
- (8) 農林食糧大臣: アレクサンドラ・ピヴェツ(DeSUS)(Dr Aleksandra Pivec, 在外スロベニア人担当省副大臣)
- (9) 公共行政大臣: ルディ・メドヴェド(LMS)(Mr Rudi Medved, ザゴリエ・オブ・サビ市行政局長)
- (10) 法務大臣: アンドレヤ・カティッチ(SD)(Ms Andreja Katič, 前国防大臣)
- (11) 経済開発・技術大臣: ズドラウコ・ポチヴァルシェク(SMC)(Mr Zdravko Počivalšek, 留任)
- (12) 労働・家族・社会問題・機会均等大臣: クセニヤ・クランプフェル(SMC)(Ms Ksenija Klampfer, 元公共行政省副大臣)
- (13) 保健大臣: サモ・ファキン(LMS)(Mr Samo Fakin, 元スロベニア健康保険機構(ZZZS)理事長)
- (14) 文化大臣: デヤン・プレシチェク(SD)(Mr Dejan Prešiček, リュブリャナ音楽バレエ学校校長)
- (15) 環境・空間計画大臣: ユレ・レーベン(SMC)(Mr Jure Leben, 前インフラ省副大臣)
- (16) 開発・戦略事業・結束担当大臣(無任所): マルコ・バンデリ(SAB)(Mr Marko Bandelli, 実業家)
- (17) 在外スロベニア人担当大臣(無任所): ペテル・J・チェスニク(SAB)(Mr Peter J. Česnik, 元航空管制官)

●新政権の支持率に関する世論調査

24日、POPTV及び世論調査会社「Mediana」社が行った調査では、連立与党のジュニア・パートナーの社会民主党(SD)が連立与党第一党のマリヤン・シャレツ・リスト(LMS)党を抜いて、支持率第2位となった。同調査結果の概要は以下のとおり。

政党(※連立与党政党)	8月	9月
民主党(SDS)	20.9%	18.3%
社会民主党(SD) ※	6.9%	8.1%
マリヤン・シャレツ・リスト党(LMS) ※	9.1%	7.7%
「左派」(The Left)	6.4%	6.1%
新スロベニア・イニシアティブ(NSi)	4.4%	5.4%
アレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB) ※	3.2%	4.3%
現代中央党(SMC) ※	4.3%	3.7%
年金者党(DeSUS) ※	1.9%	3.0%

その他、22.5%が「支持政党を決めていない」、10.8%が「いずれの政党も支持しない」と回答。また、シャレツ政権に対する評価に関し、36.5%が「支持する」、45.4%が「不満」と回答。当該世論調査は、9月24日から26日にかけて有権者705人を対象に行われた。

〈2018年地方選挙〉

●ヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長が立候補を表明【14日】

ヤンコヴィッチ(Zoran Japnković)リュブリャナ市長は、4期目就任を目指して、本年11月に予定されているリュブリャナ市長選挙に出馬する意向を表明した。同市長は、過去12年間でリュブリャナ市中心部に自動車交通制限を設け、同市を国内トップの観光名所に発展させた実績を振り返り、「リュブリャナ市を世界で最高の都市に造り上げたことを誇りに思う」と述べた。また、同市長は、再選された場合、次任期の計画はインフラ及び住宅整備であるとして、新たに1500戸の市営住宅を建設し、市内道路の20%、小学校3校及び保健センター数か所を改修すると抱負を述べた。

●右派のロガル国民議会議員がリュブリャナ市長選に立候補【30日】

野党民主党(SDS)のアンジェ・ロガル国民議会議員(Mr Anže Logar)が、本年11月18日に実施予定のリュブリャナ市長選挙に出馬する旨表明した。同氏は、過去4年間国民議会議員を務め、過去には8年間リュブリャナ市議会議員を務めた。その他の候補者は、現職のゾラン・ヤンコヴィッチ及び「Good State」党(中道左派)のメキツアル氏(Mr Smiljan Mekicar)。



(写真:ヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長、The Slovenian Convention Bureau)

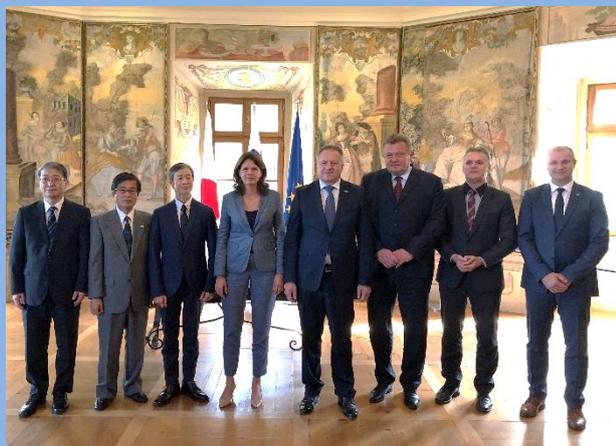
〈内政一般〉

●パホル大統領、中銀総裁候補を指名【19日】

本年4月のパホル大統領と議会政党の合意において、総選挙後の新議会における中銀総裁の任命が予定されていたことを受け、9月19日、パホル大統領は、ドレンツ(Dr Primož Dolenc)現中銀総裁代行を指名し、24日、ドレンツ氏は、国民議会にて今後の中銀方針等にかかる自身の抱負を発表した。同氏は、現在、スロベニアの銀行は良好な経営状況にあり、大きな構造的問題はないとした上で、総裁として中銀の透明性向上及び適度な監督の実施に努めると述べた。今後、議会は10月24日までに同総裁の投票を行う予定。

エネルギー管理システムと蓄電池連携による高度なエネルギーサービスの提供を目指す ～スロベニアにおける NEDO プロジェクトの第2フェーズ開始に合意～

国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)は、スロベニアの国営送電事業者である ELES と 2016 年 11 月から共同で推進しているスマートコミュニティ実証事業(通称:NEDO プロジェクト)を拡充し、新たに「クラウド型エネルギー管システムの実証(AEMS)」を実施することに合意し、2018 年 9 月 24 日に、リュブリャナ市において改訂協力覚書等の署名式を行いました。



(署名式典の様子)

署名式には、福田駐スロベニア日本国大使臨席のもと、石塚 NEDO 理事長、ポチバルチシェク経済開発・技術大臣、ブラトウシェク副首相兼インフラ大臣(元首相)、カンタルティ経済開発・技術副大臣、クーマー・インフラ副大臣、レスコヴァル外務副大臣(前駐日スロベニア大使)、メルバル ELES 社 CEO、野本日立製作所技監ほか多数の関係者が出席しました。各代表者から本実証事業の成功と実証成果のスロベニア国内および第三国への展開、そして日本とスロベニアの更なる協力関係強化への期待が述べられました。

また、署名式翌日にはシャレツ首相と石塚理事長、福田大使が会談を行いました。シャレツ首相は「NEDO プロジェクトを成功させ、EU 諸国に対しても良い事例となることを期待。また、欧州市場への展開はスロベニア政府の狙いでもある。」と述べ、9 月 13 日に発足したばかりの新政権からの本事業に対する協力・支援を改めて確認しました。



(NEDO 石塚理事長とシャレツ首相の会談)

今回拡充するテーマでは、大口需要家や電力小売事業者向けにエネルギー管理システムと蓄電池を連携させて、以下の 3 つのサービスを併用して提供する実証を 2021 年 3 月まで行う予定です。

(1)アイランディング: 停電時に病院などの重要施設を含むエリアを系統から切り離し、蓄電池から電力を供給することで、長時間停電を回避します。

(2)瞬時電圧低下(瞬低)対策: 高品質な電力供給を必要とする工場などの重要負荷設備を、降雪や落雷などにより瞬間的に電圧が低下する瞬低から蓄電池を活用して保護します。

(3)アンシラリーサービス: 蓄電池から系統安定化に寄与する周波数制御のための調整力を送電事業者に提供します。

スロベニアでは 2014 年に大寒波に起因する大規模停電が発生するなど、大停電に備えて病院などの重要設備を保護する対応策の重要性が増しています。また、製造業が盛んな同国においては、工場などを降雪や落雷による瞬低から保護する経済的な対策も必要とされています。さらに、右記を目的に需要家側に設置された蓄電池を有効活用して系統安定化に貢献することが送電事業者から期待されています。

NEDOと委託先である日立製作所は、本実証の成果を、スロベニアを起点として、同様の課題を抱える EU 他地域に普及展開させることを目指します。(協力:新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO))

●ファキン新保健省、新政権の医療制度の効率性改善を呼びかけ【19日】

ファキン保健相は、新政権の連立合意文書で掲げられている補完的保険制度の撤廃は、代替する財政基盤が確保された場合にのみ実施できるものだが、高齢化社会において年金生活者も増加する中、医療保険料の引上げには反対との見解を示した。また、今後も経済成長が予測される中、医療サービス機関の効率性が向上すれば、効果的な医療は予算増なしで達成できると述べた。更に、同大臣は、27の公立病院長との会合において、「医療従事者には出勤するだけでなく医療サービスを実施することを期待する」として、全病院に対して6か月以内に待ち時間短縮にかかる成果を出すよう要求した。なお、国家公共医療研究所のデータによれば、本年8月1日現在、治療待ちの患者数は12万2千人であり、その約半分が医療的に推奨される期間より長い期間治療待ちの状況にある。

【外政】

●クロアチア首相、シャレット新首相の訪問を招請【14日】

プレンコビッチ・クロアチア首相は、13日に就任したシャレット新首相宛に祝辞を送付すると共に、国境問題に関する対話を再開するためにクロアチアへの訪問招請を行った。プレンコビッチ首相は、「対話は、全ての問題につき再開されるべきだが、特に、国境線確定問題については、両国の満足がいく形で、EU及びNATOの加盟国であるパートナー間の友好善隣の精神に基づき解決されるべきであろう」と述べた。

〈クロアチアとの国境線確定問題〉

●欧州委法務部の報告書を巡る、スロベニア政府及び欧州委高官の反応【15～18日】

15日付ドイツ紙「Der Spiegel」が、欧州委法務部が本年5月に作成した8ページに亘る報告書を公表した。同報告書の中で法務部は、「仲裁裁定の結果はEU諸国により尊重されるべきであり、EU法の規定は、同裁定を踏まえて解釈されるべきである」との見解を示し、クロアチアを欧州司法裁判所に提訴したスロベニア側の見解の殆どの部分を支持した旨報じた。

16日、ブルツ欧州委員（運輸担当、スロベニア人）は、欧州委は、本件報告書の内容を審議したことはなく、一度も議題に挙がっていないとして、今からでも欧州委が本件につき議論することは決して遅くない旨述べた。これに対し、17日、欧州委広報部は、仲裁裁定に関する欧州委での議論は予定されていないとの考えを示した。同日、ツェラル外相は、欧州委が法務部の法的見

解を無視したことは、欧州委の組織としての信頼性を損なうものとして非難した。

18日、ティーマンス欧州委筆頭副委員長は、自分及び欧州委は、本件問題解決に向け、両国を支援する用意があるが、解決策は、国際仲裁裁判所の最終裁定に基づくべきとの立場を強調した。

●国際捕鯨委員会(IWC)、スロベニア人のビビッチ氏をIWC議長に選出【17日】

ブラジルのフロリアノポリスで開催された国際捕鯨委員回IWC総会において、全会一致で、アンドレイ・ビビッチ(Andrej Bibic) IWCスロベニア政府代表が、森下IWC日本政府代表の後任として、IWC議長に選出された。また、スロベニア環境・空間計画省は、2020年の次回IWC総会はスロベニアのポルトロージュで開催される旨発表した。IWC総会がスロベニアで開催されるのはこれで3回目となる。



(写真:シャレット首相とプレンコビッチ・クロアチア首相、Jutarnji List)

●シャレット首相、オーストリア首相及び欧州委委員長と会談【20日】

オーストリア・ザルツブルクにおいて開催された非公式欧州理事会に出席したシャレット首相は、プレンコビッチ・クロアチア首相との間で初めてとなる会談を行った。同首相は、「我々は、隣人としてお互いに自己紹介をしたのみで、具体的な事案についての意見交換は行わなかったが、堅いクルミを砕いていくためのよい機会となった」と述べた。

また、シャレット首相は、ユンカー欧州委員会委員長との間でも会談を行い、クロアチアとの間での国境問題の解決につき意見交換を行ったが、同首相によれば、同委員長より、欧州委が、法務部の報告書につき議論しなかった件につき説明はなかった。会談後、同首相は、「ユンカー委員長は、自分及び我々の立場を知っており、自分がブラッセルを訪問する際には、より突っ込んだ協議を行う」と述べた。

●国民議会議長、マケドニアのEU・NATO加盟への支持を強調【25日】

マケドニアを訪問したジダン国民議会議長は、ザイエフ大統領等と会談し、同国のEU・NATO加盟及び国名変更にかかる国民投票への支持を表明した。同議長は、「国名変更を通じ、隣国との妥協を目指す力量は、同国のみならず、西バルカン地域の情勢を注視している者全員に希望を与える」と評価した。また、同議長は、二国間関係に関し、両国間の貿易高は年率10%程度の水準で増加しつつあるとして評価した。

●パホル大統領の国連総会出席及び国連事務総長との会談【26～27日】

26日、第73回国連総会に出席したパホル大統領は、一般討論演説において、70年を迎える国連のシステムは、複雑な問題を抱える世界において挑戦を受けているが、スロベニアは、多国間主義、法の支配及び人権尊重を強く支持すると述べた。また、同大統領は、グテーレス国連事務総長による、国連の強化及び効率化を目的とした国連改革への努力に対し支持を表明した。27日、パホル大統領は、グテーレス国連事務総長と会談し、西バルカン情勢を中心に意見交換を行った。同事務総長は、スロベニアに対し、地域諸国間の協力を促進するブルドー・ブリウニ・プロセスを初めとする地域イニシアティブへの関与継続を奨励した。

●ツェラル外相の訪米【26日】

国連総会出席のため訪米したツェラル副首相兼外相は、ポンペオ米国務長官及びミッチェル国務次官(欧州・ユーラシア担当)と会談し、最近の二国間関係に満足の意を表明した。同外相は、記者団に対し、米国との関係は強化されていくが、それは、EU及びロシアとの関係強化を犠牲にするものではないとの考えを示した。また、同外相は、過去数年間において、スロベニアが政治経済分野において如何に発展を遂げたかにつき米国での理解を広める努力が必要であると述べた。

●駐スロベニア・ロシア大使、新政権下でも二国間関係に変化はない旨発言【27日】

ザブガイェフ駐スロベニア・ロシア大使は、政権交代が二国間関係に大きな影響を及ぼすことはないであろうとの考えを示した。同大使は、「スロベニア人とロシア人との関係は、米国の建国前まで遡る。両国の関係は、良好且つ包括的なものである」と述べた。

第13回ブレッド戦略フォーラム(Bled Strategic Forum)の開催

●9月10日～11日の日程で行われた今年のフォーラムは、「隔たりに超えて(Bridging the Divide)」のテーマの下、第1日目は、開会セッション、リーダーズ・パネル及び特別パネルが開催されたほか、第2日目は、EUの将来、西バルカン、ITF(対人地雷支援機関)等のパネルセッションが開催された。



(開会式: ツェラル首相(当時)及びパホル大統領)

●新政権発足前に開催されたことを背景に各国からの政府高官の参加は少なかったものの、バルニエ・EU首席交渉官、グレミンガーOSCE事務総長、シュミット欧州対外行動庁(EEAS)事務総長、コソボ副首相、ボスニア・ヘルツェゴビナ及びモンテネグロ外相、各国及び国際機関の代表が計25件のパネルに登壇。全体で60か国、1200名超の参加があり、同フォーラム史上最大の規模となった。

●ヤングBSFでは、「持続可能なセキュリティ」のテーマの下、世代間協力、持続可能な観光促進、AI、汚職対策、男女平等、西バルカン地域における安全保障等について議論が行われた。また、今まで非公開であったヤングBSF初の試みとして、同志社大学及びリブリヤナ大学による共同パネル(写真:下)を含む5つのセッションが公開され多くの聴衆を集めた。



(写真: Bled Strategic Forum)

発見！スロベニア

アーバン文化地区「メテルコヴァ(Metelkova)」が英主要紙により「欧州で最もクールな区域10選」に選出

メテルコヴァ(Metelkova)は、リュブリャナ駅近くに位置する「自主的(autonomous)文化センター」であり、旧ユーゴ人民軍(JNA)の元兵舎(以前はオーストリア・ハンガリー帝国軍)を活用しています。創立の考えは、1980年代末に遡り、兵舎を入手すべく、約200人の知識人、芸術家等が「メテルコバのための機関」を設立しました。



(写真:メテルコヴァ、Radio Student)

1991年のJNA撤退後、市より建物の使用を許可されましたが、1993年に一部を破壊する計画が明らかになった際には、著名な知識人も含む、約100人が敷地を占領し、NGOや芸術家のみならず、マザー・テレサも支持を表明しました。現在、メテルコヴァ内には、多くのライブ・ダンスホール、アートギャラリー、バー、LGBT向けクラブ、無政府主義者のセンター等、多くの施設が所在し、寛容の精神の象徴的な場所となっています。



(写真:民族学博物館、Culture Trip)

9月3日付英Independence紙は、「メテルコヴァは、違法なレイブパーティーやアート展示開催のために兵舎を不法占拠する自由人達が居住する違法地区だったが、現在は、より統合され、欧州でも最もトレンディーな文化ハブの一つとなった。現代美術館や民族学博物館を始めとする多数の機関が所在し、様々な人々が訪れており、夜には、LGBTイベントや、政治討論、デスマタルのコンサート、アートの展示まで様々なプログラムを提供している」と評価しています。

経済

〈コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業〉

●スロベニア政府、2TDK社に対し、鉄道路線建設予定区画の地上権を付与【5日】

スロベニア政府は、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業を官民連携方式(PPP)で実施するために設立された2TDK社に対し、ディヴァチャからデカニの鉄道路線建設予定区間につき、45年間に亘る地上権(right of superficies)を付与することを閣議決定した。政府は、8月30日、政府は、同社に対し、2000万ユーロの資金注入を行い、本年末迄に1億7900万ユーロを資本注入する予定となっている。



(写真:コペル〜ディヴァチャ路線、Primorske novice)

●ブラトウシェク・インフラ大臣、ハンガリーとの交渉継続を確認【28日】

ブラトウシェク・インフラ大臣は、第2鉄道路線を独自で建設することも可能だが、ハンガリーとの交渉は継続されるとの考えを示した。同大臣は、「ハンガリーとの交渉から離脱するのは公正ではなく、現時点では、両方の選択肢が存在する。仮に、ハンガリーが参入しない場合には、国庫又は借款により費用を確保することが可能である」と述べる一方で、前政権が策定した9億6000万ユーロという総工費の見積りの再精査を求めた。また、同大臣は、コペル港湾会社は、完全な国有企業として存続することが重要である」との考えを強調した。

〈経済一般〉

●リュブリャナ・トリエステ間の鉄道が7年ぶりに運行再開【9日】

リュブリャナ・トリエステ間の鉄道が7年ぶりに運転再開した。リュブリャナ発イタリア方面の列車は、毎日2便運航され、一便はトリエステ行きで、所要時間は約2時間半。もう一便はトリエステ駅を通過後、ロンキ・デイ・レジョナーリ空港駅及びウディネ駅までつながっており、イタリア各方面への列車に乗り継ぐことが可能となる。

●国際人材サービス会社、スロベニアの好調な労働市場拡大を予測【11日】

国際的な人材サービス企業「Manpower」社は世界44か国・地域における雇用予測調査結果を発表し、スロベニアでは、2018年第4半期において「増員する」と回答した企業が全体(620社)の20%、「減員する」が4%、「変化なし」が74%となり、全体の純雇用予測値は+19%と、好調な雇用意欲を示した。同数値は、ルーマニア及び米国と並び、日本(+26%)及び台湾(+21%)に次ぐ第3位。特に雇用意欲の高かった分野は、建設業、金融・ビジネスサービス、保険・不動産業、運輸・ロジスティックス等。

●パホル大統領、新政権下のビジネス環境に関する懸念払拭のため、ビジネス関係者と懇談【12日】

パホル大統領は、スロベニア・ビジネス・クラブ(SBC)代表と会談し、新政権下のビジネス環境につき意見交換を行った。SBC側は、新政権の連立合意に増税が記載されていることに懸念を表明したのに対し、同大統領は、政治への信頼及び社会的パートナーとの協力関係再構築が安定を達成するために必要であると述べた。バタゲリSBC代表は、今次会合は非常に有益だったとして、パホル大統領は、経済環境の安定化に向け、新政権が努力するという希望を与えたと述べた。

●安川電機、来年2月に新規ロボット製造拠点の操業開始を発表【20日】

安川スロベニア社のコスレル社長(Dr. Hubert Kosler)は、昨年秋から、南部コチュエウイェ市で建設中の、安川電機の欧州ロボット製造拠点が来年2月に操業を開始する旨を発表した。同社長は、建設工事は順調に進んでおり、現在、同工場にて使用される機材の搬入・設置が行われており、本年11月か12月にも試験操業を行う予定となっていると述べた。



(写真：工事が進む安川ヨーロッパ社の新規ロボット製造拠点、Moja Dolenjska)

●経済大臣、主要経済団体により構成される政府への諮問機関を設置【25日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、新政権の経済政策及び指針に対する助言を提供するため、同省及び主要経済団体からなる諮問機関「競争力強化及び安定したビジネス環境のための専門機関」を設置した。参加する団体は、スロベニア商工会議所(GZS及びTZS)、工芸品・小規模企業協会(OZS)、雇用者協会及びスロベニア・ビジネス・クラブ。同大臣は、同機関にて、労働法や税制を含む経済政策に関する課題について経済界関係者と協議し、自分はその結果を内閣と共有する役割を担うと述べた。

軍事・治安情勢

●スロベニア軍、ハンガリー軍とヘリコプター部隊の合同訓練を実施【3日】

スロベニアの山岳地帯において、スロベニアとハンガリー軍のヘリコプター部隊の合同訓練が開始された。同訓練は、両軍による定例年次訓練「Lord Mountain」の一環として開催しているもので、リュブリャナ国際空港を拠点とし、7日(金)まで行われ、通常の飛行訓練に加え、山岳飛行及び飛行場外での着陸訓練も含まれる。同訓練では、スロベニア軍から2機の Cougar AS 532 型ヘリコプター、ハンガリー軍から Mi-17 型ヘリコプターが参加し、毎日約4時間の訓練が行われる。

●極右勢力による集会の開催【3日～17日】

3日、「シュタイエルスカ守備隊」と名乗る覆面を被り戦闘服を着用した男達が、森の中で小銃や斧を把持して整列している動画や画像が、インターネット上に掲出され、議会外政党「統一スロベニア(United Slovenia)」代表のアンドレイ・シシュコ氏は、同グループの代表であることを認め、6日、警察は、憲法秩序転覆扇動の疑いによりシシュコ氏を逮捕した。

9日、マリボル地方裁判所判事は、証拠不十分によりシシュコ氏の再勾留を認めず、シシュコ氏は釈放されたが、その後、同地方裁判所判事らによる委員会は釈放の決定を覆し、12日、シシュコ氏は再び勾留された。

また、17日、「クラン守備隊」を名乗るグループのSNSに、戦闘服を着用した男8人が、AK47と見られる武器を携行し、訓練を行っている写真が掲出された。「シュタイエルスカ守備隊」と「クラン守備隊」の関連性は不明。

●エリヤヴェツ外相(当時)、コペル港のNATO兵站貴地化を否定【6日】

テレビ・スロベニアが、スロベニア唯一の港であるコペ

ル港が、NATOの兵站基地として使用される可能性がある」と報じたことに対し、エリヤヴェツ外相(当時)は、同テレビの報道内容を否定しつつも、同港が米国政府との間で、潜在的な商業目的の使用につき協議を行っていることは承知していると述べた。また、カチン駐NATOスロベニア大使も、報道内容を否定した上で、同港はNATO加盟国に対する兵站支援を1回提供する方向で協議が行われていると承知していると述べた。

●パホル大統領、ラトビアのNATO基地に展開するスロベニア軍部隊を訪問【13日】

パホル大統領は、スロベニア軍部隊が「NATOの前方プレゼンス」の一環として展開するラトビアのアダジ(Adazi) NATO軍基地を訪問した。同大統領は、「Arraiolos グループ」の非公式会合出席のため同国を訪問し、同グループに参加している13ヶ国の国家元首との間で、欧州及び世界の安全保障に対する挑戦、欧州及びEUの将来像につき意見交換を行った。

社会・文化・スポーツ

●スロベニア人の自殺統計が発表【10日】

2017年のスロベニアにおける自殺件数にかかる統計が発表され、前年比微増の男性327人及び女性32人を記録したことが明らかとなった。同数値は、10万人あたり20人の計算となり、欧州の平均値10万人あたり11人を大幅に上回る。国際自殺予防協会のポシュトゥヴァン氏は、スロベニアでは依然として高齢の男性による自殺率が高いとする一方で、若年層でも自殺のリスクが存在し、特に小学校でも自殺行為が拡大しているとして警鐘を鳴らした。

●スロベニア人選手が「世界射撃選手権」にて金メダルを獲得し優勝【10日】

韓国南部の昌原にて国際射撃連盟(ISSF)主催の「世界射撃選手権」が開催され、スロベニア人のベテラン選手ライモンド・デベヴェツ(Rajmond Debevec)が300mライフル伏射男子にて、592ポイントで金メダルを獲得した。2位はポーランドのロマンチク、3位はクロアチアのクーナとなった。デベヴェツ選手は2002年のラハティ大会でも優勝。また、50mライフル三姿勢ではオリンピック金メダル1つ、銀メダル2つも獲得している。

●スロベニア人選手が「IFSC クライミング世界選手権 2018」で優勝【16日】

オーストリアのインスブルックで開催された「IFSC クライミング世界選手権 2018」において、リード、スピード、ボ

ルダリングの女子複合で、すでに本選手権でボルダリングで金、リードで銀を獲得しているスロベニアのガンブレット選手(Janja Garnbret)が優勝を果たした。その他の結果は、韓国のサ・ソルが2位、オーストリアのジェシカ・ピルツが3位、日本の野口啓代、野中生萌はそれぞれ3位と4位、スイスのペトラ・クリングラーが5位となった。



(写真：ヤニヤ・ガンブレット選手、Primorske novice)

●「柔道世界選手権」にてスロベニア人選手が銅メダルを獲得【23日】

アゼルバイジャン・バクーで開催された「柔道世界選手権」女子63kg級でスロベニア人選手ティナ・トルステニャク(Tina Trstenjak)が銅メダルを獲得した。日本人の田代未来は決勝でフランス人のクラリス・アグベニエヌに延長の末、一本負けで銀メダル。クラリス・アグベニエヌが優勝した。トルステニャク選手は2015年のアスタナ世界選手権で優勝、リオネジャネイロ五輪で金メダルを獲得しており、今回のメダル獲得で柔道世界選手権4大会連続のメダル獲得となった。

●欧州オリンピック・アカデミーの設立【20日】

リュブリャナ市にて、欧州20か国のオリンピック・アカデミーの代表が一堂に会し、欧州オリンピックアカデミー(European Olympic Academy, EOA)を設立した。同アカデミーは、フランクフルトに本部を置き、国際オリンピック・アカデミー(IOA)と協力してオリンピックの理念とビジョンを促進することを目的とする。同会合に出席したミロスラウ・ツェラル(Mr Miroslav Cerar、ツェラル副首相兼外相の父君)スロベニア・オリンピック・アカデミー長(1964年東京オリンピック鞍馬金メダリスト)及びガブロヴェツ・スロベニア・オリンピック委員長は、「各国の五輪関係者の連携を強め、五輪・スポーツ関連の研究・教育の発展に寄与する取組」として同アカデミーの創設を歓迎した。

ワイン大国スロベニアのワイナリー紹介

第12回 「バティチ(Batič)」

バティチ(Batič)ワイナリーは、スロベニア西部、イタリアとの国境に近いヴィパヴァ(Vipava)渓谷シェンパス村(Šempas)に位置し、その歴史は、1592年のルネッサンス期まで遡ります。当時、シェンパスの領主であったバティチ家の領地内で暮らしていた修道士たちは礼拝儀式用に優れた品質のワインを製造していました。バティチ家は、この伝統を代々継承し、スロベニアを代表するワイナリーとなりました。



(写真：Travel Courious Often)

バティチは、異なる標高の3つのブドウ畑47ヘクタールを有しています。バティチでは、農薬・殺虫剤を使用する代わりに、75度に熱した空気を風速150キロでブドウの木に吹き付けることにより、ブドウの葉を厚くし、抗酸化成分を増強させることで免疫力を強化する物理的栽培方式(PCS)と称するバイオ農法を欧州で初めて導入しました。このアイデアは、アルプスからの強風ボラ(Bora)が吹き付けるバティチの最も標高の高いブドウ畑では、一切、農薬・殺虫剤が必要ないことから得ており、現在では標高の低いブドウ畑でのみ PCS を使用しています。

バティチの代表的なワインの評価は次の通りです(協力:Zaria 岩井ソムリエ)。

①BATIC REBULA 『バティチ レブーラ』

天然の酵母を使用し、赤ワインと同じように長い間、皮をワインに漬け込むことにより、レブーラ種の特徴であるゴールドカラーをしたワインに仕上げています。濾過すること無く瓶詰めをすることにより、綺麗な色彩を残すだけでは無く味わいも深いワインに仕上がります。ボディのしっかりしたワインなので、魚料理だけではなくお肉料理にも合わせることも出来るワインです。

②BATIC ROSE 『バティチ ロゼ』

本来、カベルネソーヴィニオン種はタンニンが強く長期熟成を目的としたワインを造る目的として植えられますが、バティチでは、ロゼワインを造るためだけに植えられています。葡萄自身が持つ天然酵母を使用し、人工的なものを一切添加しない造り方なので、きめ細かな泡が抜栓直後には感じられます。これは酵母が生きていた証です。抜栓してから1時間ほどしてから飲まれるとワインが落ち着き柔らかい印象になります。ストロベリーの酸味も感じるやや辛口のワインです。

③BATIC MIHA WHITE 『バティチ ミハ ホワイト』

ミハとは現バティチ当主の名前を由来とする Zaria のオリジナルワインです。ヴィパヴァの土着品種ピネラ種を主体にシャルドネ種・マルヴァジア種・レブーラ種・リースリング種・ゼレン種・ヴィトヴィスカ種を1%単位で調合し完璧なワインに仕上げています。綺麗なゴールドカラーの色調で、口に少し含むだけで凝縮したワインがブランデーのように力強く広がります。辛口ですが余韻が非常に長く、一度飲んだら忘れられない味です。お食事と合わせるよりも、大事な方との会話の中にこのワインがあれば非常に素晴らしい時間を過ごせます。



(写真：The Morning Claret)

④BATIC MIHA MERLOT 『バティチ ミハ メルロ』

ヴィパヴァは100万年前の白亜紀土壌でフランスのシャンパーニュと同じ土壌で、水捌けがよく非常にブドウ栽培に適しています。凝縮したブドウを栽培できる環境にあるのでブドウの本来の特徴を味わうことが出来ます。中でもメルロ種はとてもしっかりと濃厚でチョコレートを思わせる滑らかさが口に広がります。香りも高く、滑らかでエレガントなワインの代名詞といえるワインです。料理との相性も良く、サシのある優しい香りの和牛とミハメルロをソース代わりに合わせるの最高のマリージュです。

以上の4種類は総代理店Zaria から購入可能です。

(株)ZARIA : <http://www.zaria-jpn.com>

スロベニア紀行

今回は、スロベニアを訪れたならばこれを食べずしてスロベニアを去ることはできない、そんなおすすめのスイーツを紹介합니다。その名も「ブレッドクリームケーキ」。初めてスロヴェニアを訪れた時、たまたまこのケーキの発祥の地ブレッドに立ち寄りました。「アルプスの瞳」の別名を持つブレッド湖に面したカフェでおすすめのスイーツを尋ねすすめられたのがこれ。その美味しさったらもう、ほっぺたが落ちる以外の形容が浮かびませんでした。それ以来、スロベニアを訪れた際は必ず「ブレッドクリームケーキはありますか？」と食事のたびに尋ねています。



宮地 麻雄 (ミヤチマツジオ)
2013~18 マウンテンランニング日本代表

個人的には世界一美味しいと思うスイーツ



ブレッドはスロベニアの北西部の山岳エリア・ゴレンスカ地方に位置しており、首都のリュブリャナからも車で小一時間ほど。しかし観光名所でもあり渋滞や駐車場探しを考えると、時間に余裕を持って訪問すると安心です。ブレッド湖を囲むように様々なお店が軒を連ねており、カフェも多数。クリームケーキ発祥の地とあって多くのカフェでクリームケーキを作っています。そんな中で、スロベニア人の友人が教えてくれた地元の人行きつけのお店を今回は紹介します。左の写真にある「ZIMA」というお店です。以前は「SMON」と言う店名だったそうでガイドブックなどではそちらの名前で載っているものもあるかもしれませんが、湖畔浴いで「ZIMA」と尋ねればご近所さんならまずわかるとのこと。旅の実感として、スロベニア人の多くは英語が十分通じるので旅行がしやすいというのも、ついでながら魅力の一つ。さて、お店に着いて驚くのがケーキの大きさです。僕と比べてもらうとわかると思うのですが、大きい！！食べ応え抜群です。見た目は分厚いミルフィーユ。でも、こんなに大きいのにふわっと軽く、クリームの程よい甘さはたまりません。ぺろっと食べちゃうはず。そして、食べ終わったら僕と同じくこのケーキの虜になっている事でしょう。このお店の食材は無添加で味・ボリューム共に抜群なのもあり、お店にはひっきりなしにお客さんが来ます。またケーキの種類も豊富なので、何人かで訪れて色々なケーキを食べ比べるのも楽しいかもしれません。スロベニアの料理はケーキだけでなく、全体的に味付けが繊細で日本人の舌に合うものがたくさんあります。是非とも色々な料理にチャレンジしてお気に入りの料理を見つけてください。そして是非、僕に教えてくださいね。スロベニアに行く楽しみが増えるのは僕にとってはとても嬉しいことなので！ちょうど今回のニューステアターが発行される10月上旬、マウンテンランニングワールドカップ出場のためスロベニアに滞在中です。皆さんに良い報告ができるように頑張ります！！それでは、次回の寄稿もお楽しみに！

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。1月号では鹿児島県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、日本人観光客のスリ被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

【広報文化班からのお知らせ】

●RTVスロベニアにて日本番組放映中！

・Fascinating Japan! Fascinating Iwate!(夢・見る・ピノキオ):

- 日本の様々な自然・文化・観光・食を美しい映像とともに紹介する番組

- 毎週月曜日～木曜日 19:30頃から(10月18日最終放送)※開始時間は日によって異なります。

- チャンネル: TV Slovenija 2

※詳しくは <http://4d.rtv slo.si/program> をご覧ください。

●パラ卓球2018世界選手権

当国ツェリエ市で、パラ卓球の2018世界選手権が開催され、日本からも男子・女子の代表選手団が参加します！ぜひ皆様お誘い合わせの上、観戦してみたいはいかがでしょうか。

-会場: Zlatorog スポーツホール (Sports hall Zlatorog, Opekarniska cesta 15d, Celje)

-日時: 10月15日(月)～21日(日)

-入場料: 無料

※詳細は、主催者HP <http://spint2018.com> をご覧ください。